

KVBCプロジェクトニュース 『グローバル問題研究会』『ものづくり研究会』

KVBC（京都市ベンチャービジネスクラブ）会員企業でつくるユニークな各プロジェクト。先月号に掲載した『人材ネットワークプロジェクト』活動紹介に引き続き、今月号には残る2つのプロジェクト『グローバル問題研究会』『ものづくり研究会』をご紹介します。

グローバル問題研究会

「儲かりまっか」「景気ワるおすなあ〜」ってな話題も大事やけど、わが研究会に入って世界を議論しませんか？

代表 有川晴彦（アーク・テクノロジー株式会社）

●はじめに●

私たちは世界中の社会・経済・政治の動きを、ほとんどがメディア（書籍も含む）を通して、知ってるつもり、でいます。逆に言えば、おもにメディアを通して世界を理解し状況を判断しています。しかしそれでどこまで「真相」に迫れるでしょうか？

例えば、一昨年末の不審船事件では、戦後初めてわが国の艦船が戦火を交え、相手船は自爆沈没しました。それまで何十年も不審船は出沒してきただけなのに、この時は何故？ こうしたことは決して偶然では起こりません。問題を解く鍵のひとつは、この時の不審船の情報はアメリカが提供したこと。つまり米側は、戦火を交える可能性を期待してたのでは？ 事実、米国では日本再軍備容認論が浮上しています。つまり……。 （続きの議論は入会後の楽しみです）

「グローバル問題研究会」は、私たちの日常ビジネスに見無関係のようで、実は関連してくる重要な問題を研究します。真相は、一般的な情報の彼方にあります。例えば次にご紹介する「事実」はいかがでしょうか？

●バブルと長期不況の真犯人●

まず、現代でお金（カネ）とは「数字」に過ぎません。「信用」を前提にのみ価値が認められ、通貨を発行することを「信用創造」とも呼んでいます。

次に、なぜ（通常の）銀行が中央銀行（つまり日銀）を必要とするか？ 簡単に言えば、銀行に常に必要量のカネがあるとは限らないからであり、資金が必要な時に中央銀行から資金を調達したいからなのです。中央銀行が銀行の銀行と言われる所以です。

こうした中央銀行の権限のもとに「窓口指導」という秘密テクニックがあります。銀行担当者が日銀の「窓口」へ出向いて“指導”を受けるところから付けられた名称ですが、その指導内容とは信用創造量の割り当てでありまして、早い話とだけおカネを配分してもらえるか、という話ですね。

バブル発生当時、日銀はこの窓口指導を通じて意図的に信用創造を大量に行っており、各銀行に半強制的に割り当てたのです。

ではなぜ銀行側は、そんな必要以上の資金は要らない、と断れなかったのでしょうか？ もし断って割当量を減額すれば、次回からはその量しかもらえないことを意味しました。つまり熾烈な他銀行との競争に負けてしまう、との心理を利用したのです。こうして全国の支店長が、どうか皆さんおカネを借りてください、とお願いしてまわる破目になった……その結果は、ご存知の通りですね。ところがその後突然、日銀は信用創造量を急激に収縮したため、バブルは弾け飛んだ。こうして日本は不良債権を抱えて、「失われた十年」と言われる長期不況に突入することになったのです。

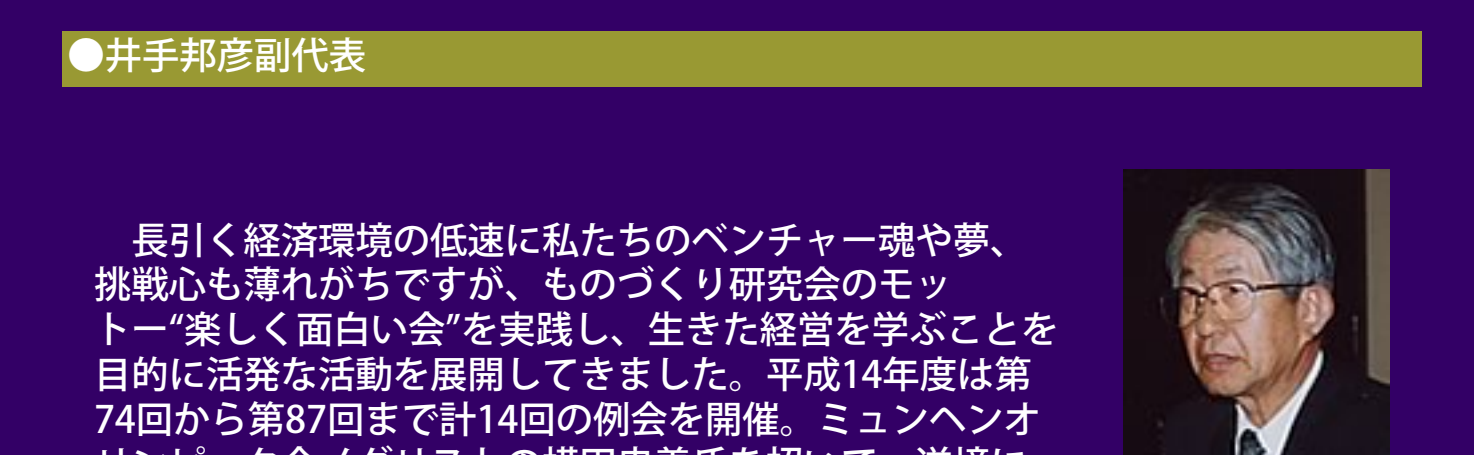
○推薦図書：「円の支配者」（草思社）

●おわりに●

こうした日銀の話が「事実」なら、なんでメディアで識者がもっとそれを取り上げへんのや？、と疑問をもたれた方もおられるでしょう。実は昭和初期前後も、現在と似た状況があったのだけれど、メディアは言えなかった。それに戦争と無関係ではない。

○推薦図書：「赤い橋」（集英社文庫）第1巻231頁より『人類は、何度だまされれば気がつくのか・・・』

「儲かりまっか」「景気ワるおすなあ〜」・・・ってな話題も大事やけど、わが研究会に入って「世界」を考えませんか？ 最後にひと言・・・「何かエピソードおへんか！」



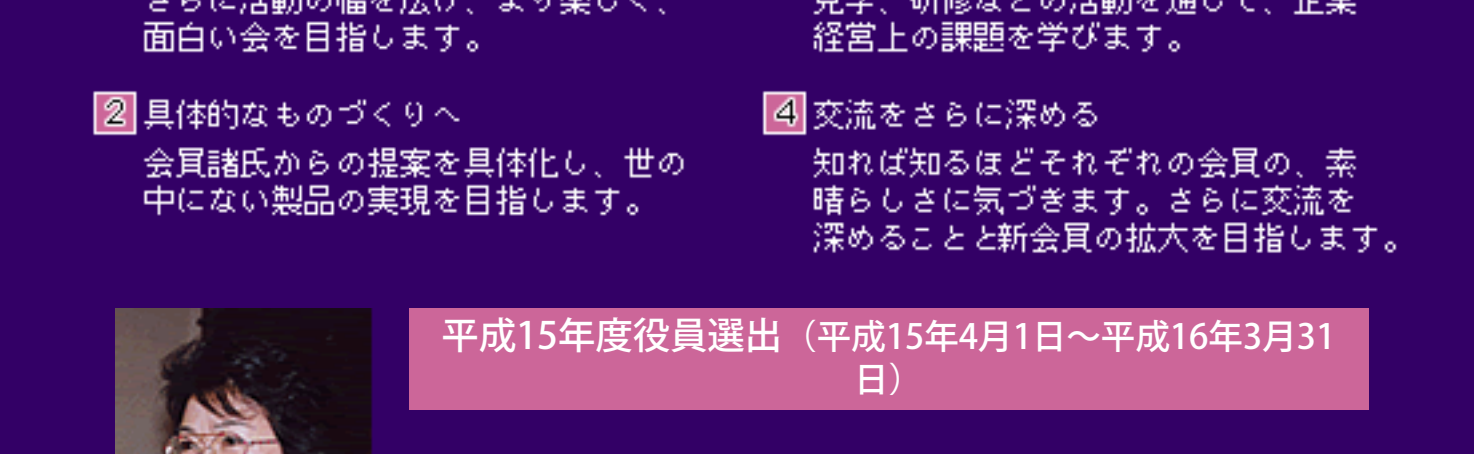
●活動内容●
インターネット同報メールでの情報交換。2〜3カ月に1回のオフ会（リアル会議）。有志による「一攫千金プロジェクト」など、ロマン多き会です。KVBC会員の方の新たなお参加をお待ちしています。

●現在のメンバー●（入会順）

代表 有川晴彦	アーク・テクノロジー株式会社（株）
会計 河合康博	アド・プロヴィジョン（株）
猪飼昭嗣	（株）ゼロワン
ロイントール	（有）ログレス貿易
藤岡治清	（株）ユニクス
木下 豊	（株）エグザム
中沼 智	中沼アートスクリーン（株）
井手邦彦	洛陽技研（株）
清水隆二	（株）エステイション

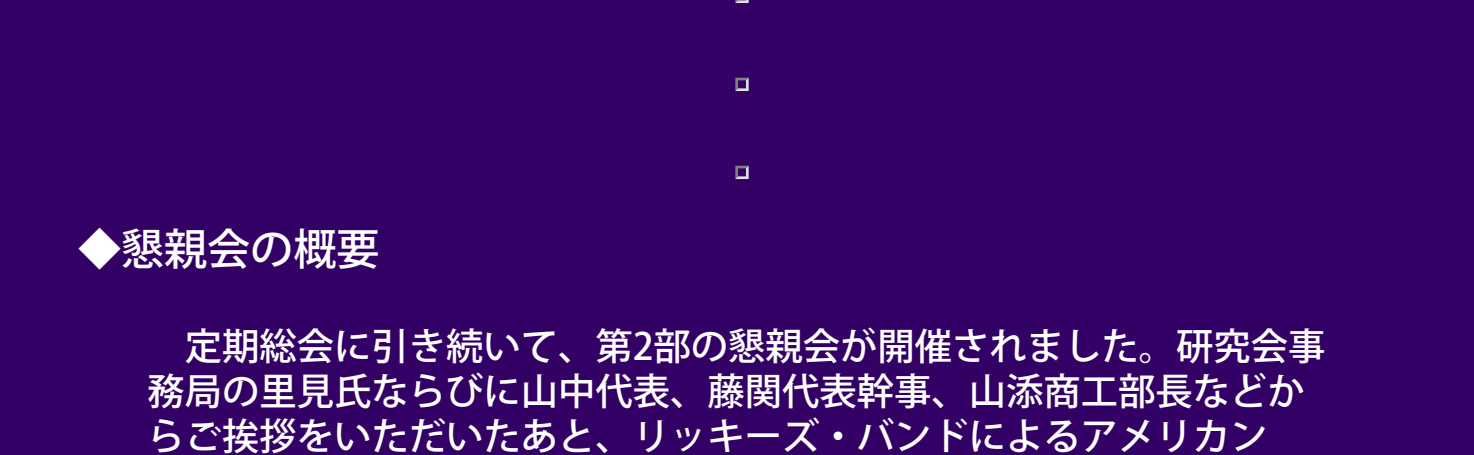
ものづくり研究会

第9回定期総会が開催されました



去る5月10日、ものづくり研究会の第9期定期総会が、ホテル京阪京都において開催されました。研究会事務局の関氏と大橋代表による開会挨拶のあと、平成14年度の事業報告ならびに会計報告、会計監査報告、平成15年度の役員選出や事業計画の確認が滞りなく行われました。

●事務局 関義一氏



平成7年9月にKVBCの特別プロジェクトとして「ものづくり研究会」が発足して以来、今年で第9期目を迎えます。昨年は研究会など十数回の活動を行い、延べ226名の方にご参加いただきました。国内産業がますます空洞化する中で、ものづくりにこだわり続けることが経済活性化の大きなカギになってくると思います。今総会では、新しく京都市産業観光局商工部長に就任された山添洋司様、京都市産業振興課長の辻智之様、KVBCを担当していただく事務局として山下係長、真鍋様をお迎えしており、気持ちも新たにさまざまな活動に取り組んでいきたいと思っております。

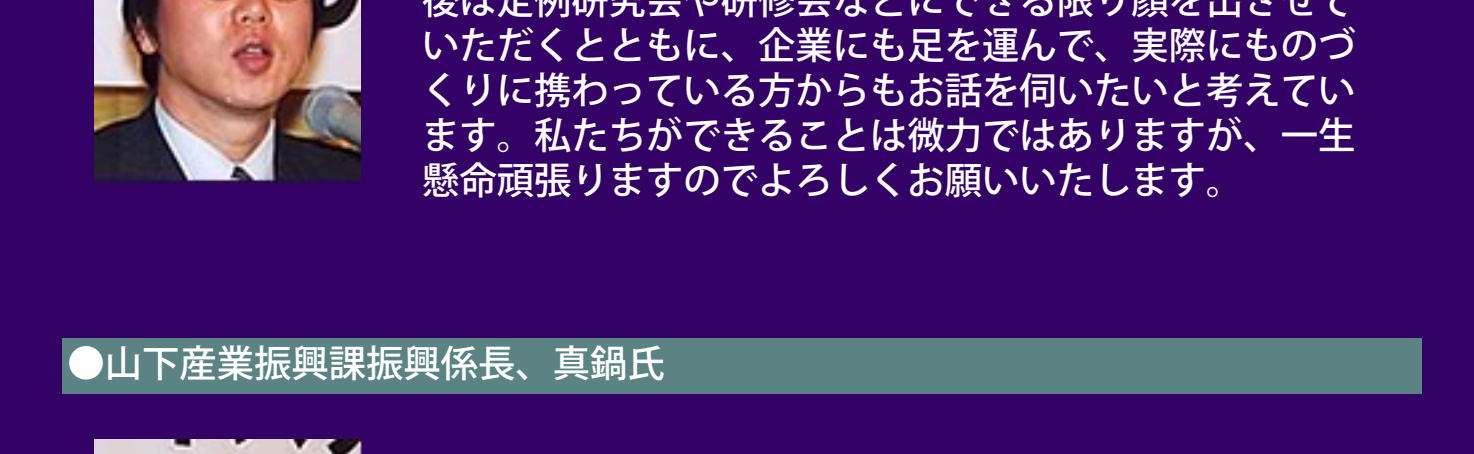
●大橋代表



ものづくり研究会は発足して今年で8年を迎えます。会員企業の皆さまの努力によって、これまで数多くの実りある活動成果を残してきました。さて、今年4月に「第2京阪道路」が開通し、それによって国道1号線の渋滞が大きく緩和されたそうです。流れが変わるといえるのは、改めて凄いと感じさせられました。ものづくりの世界では、液晶テレビを例にとると、この研究会がスタートした8年前は世界一の技術力を誇っていたシャープが、現在では韓国のサムソンにとって代わられています。アジアに傾きかけている流れをいかに私たちの手元に引き戻すことができるか。ものづくりに重要なことを確認しつつ、ものづくりの新たな潮流を生み出していきたいと考えています。

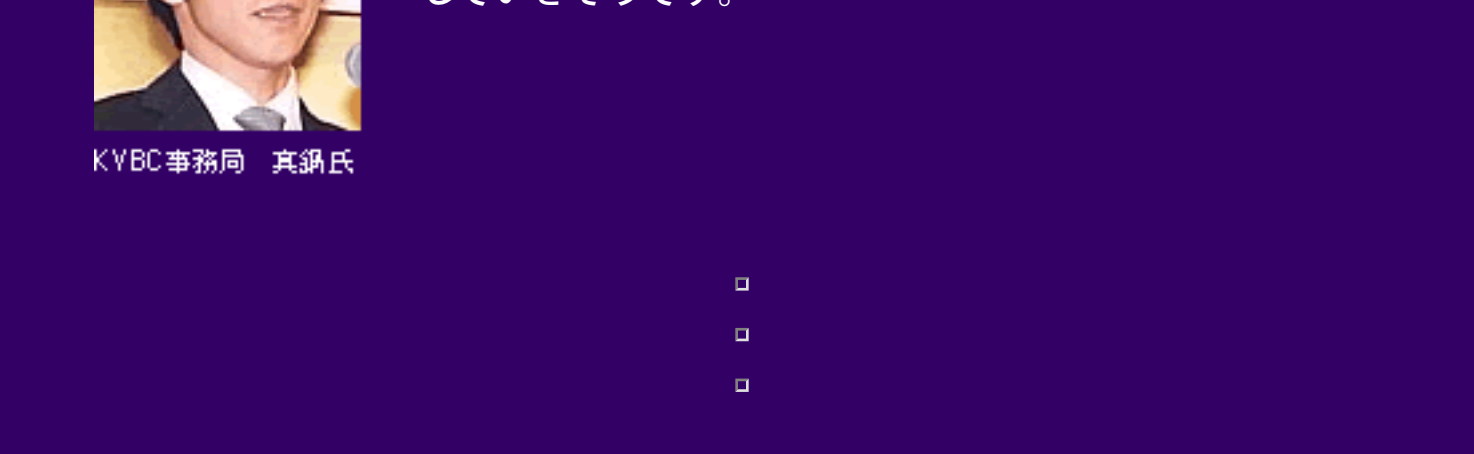
■平成14年度事業報告■

●井手邦彦副代表



長らく経済環境の低迷に私たちのベンチャー魂や夢、挑戦心も薄れがちですが、ものづくり研究会の motto “楽しく面白い会” を実践し、生きた経営を学ぶことを目的に活発な活動を展開してきました。平成14年度は第74回から第87回まで計14回の例会を開催。ミュンヘンオリンピック金メダリストの横田忠義氏を招いて、逆風に強い精神力を学んだほか、ものづくり研究会のメンバーである旭金属（岐阜工場）や富田屋さんでの研修、KVBCオープンセミナーへの参加、また関西国立国会図書館など最先端施設を訪問しました。

●山中泰宏新代表の挨拶



今までの日本の発展を支えてきたのも、いま日本が大いに苦しんでいるのも「ものづくり」ではないでしょうか。今まさに私たちの真価が問われようとしているのです。ものづくり研究会では、これまで90回に及ぶ研究例会を重ねてきました。これらの会を通じて培われた会員相互の信頼とものづくりのノウハウなどを、これからも大切に守り育て、さらに発展させていきたいと思っております。そして、会員諸氏からの提案を具現化し、世の中にない製品を開発を目指して、「ものづくり道」に邁進していきたいと考えています。今後とも会員、事務局の皆さまのご協力をご支援をお願いいたします。

■平成15年度事業計画（方針案）■

- 1 楽しく面白い会
さらに活動を幅を広げ、より楽しく、面白い会を目指します。
- 2 具体的なものづくりへ
会員諸氏からの提案を具体化し、世の中にない製品の表現を目指します。
- 3 生きた経営を学ぶ
見学、研修などの活動を通じて、企業経営上の課題を学びます。
- 4 交流をさらに深める
知れば知るほどそれぞれの会員の、素晴らしいところに気づきます。さらに交流を深めることと新会員の拡充を目指します。

平成15年度役員選出（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

代表	山中泰宏（株）旭テクノプロデュース
副代表	田中久代（株）田中プリント
会計	川端克裕（大洋エックス（株））
事務局	里見健志（（株）アプテック）
会計幹事	野中時雄（シュウテック（株））
幹事	青山雄二（（株）フジヤマ技研）
幹事	西谷謙二（（株）和光舎）
幹事	大橋 正明（マイクロニクス（株））
幹事	井手邦彦（洛陽技研（株））
幹事	関 義一（京都技研工業（株））

◆懇親会の概要

定期総会に引き続いて、第2部の懇親会が開催されました。研究会事務局の里見氏ならびに山中代表、藤岡代表幹事、山添商工部長などからご挨拶をいただいたあと、リッキーズ・バンドによるアメリカンソング「オールディーズ」の演奏やカラオケ大会、ビンゴゲームなど熱気あふれるアトラクションの数々に会場は大盛り上がり。最後はものづくり研究会のテーマソング「明日があるさ（替え歌）」を参加者全員で合唱し、終始なごやかな雰囲気の中で親睦交流が図られました。

●山添商工部長

科学技術の研究開発に全世界が力を注いでいるいま、京都市でも染織試験場と工業試験場を統合して産業技術研究所を立ち上げ、いまも資源を有効に活用しながら、新たな研究を進めていこうと努力しています。私自身、かつて伝統産業課にいたことがあり、「ものづくり」の大切さは分かっているつもりですが、ベンチャーの皆さんとお仕事をさせていただくのは初めてなので非常に楽しみにしています。いろいろと勉強させていただきます。ともに京都経済の発展に取り組んでいきたいと思っております。

●産業振興課長

今回、ものづくり研究会の総会に参加して、その活動理念や趣旨に触れ、非常に素晴らしいと感じました。今後は定例研究会や研究会などに行き届いた感じで、いろいろなことに携わっていただける方もお話を伺いたいと考えています。私たちができることは微力ではありますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。

●山下産業振興課振興係長、真鍋氏

昨年までお世話になった京都市産業振興課の三田係長、金田さんに代わって、新たに山下係長ならびに真鍋氏をKVBC事務局にお迎えすることになりました。山下係長は「ものづくりに関しては、まったく初めてで分からないことばかり。産業振興課と同じように、私も積極的に企業の現場を訪ねて「ものづくり」について勉強したいと思えます」と挨拶。引き続き真鍋氏が壇上に立ち、「企業の代表者の方と接する機会はないかならないので、いろいろなことを教えていただきながら、自分自身の成長の糧としたいです」と決意表明されると、会場からは大きな拍手が巻き起こりました。ものづくり研究会の役員、事務局ともに新メンバーが揃い、今後その活動はますますパワーアップしていきそうです。

